

令和6年度第2回小学校教科担任制推進協議会 実践交流資料

1 学校名・教科型

安芸高田市立甲田小学校 9教科型

2 学校の概要

学級数及び児童数(R6.12.1現在)

	通常学級							特支 学級	合計
	1年	2年	3年	4年	5年	6年	計		
児童数	23	31	28	38	37	36	193	18	211
学級数	1	1	1	2	2	2	9	3	12

3 教科担任制推進教員を配置した授業計画

教科等	国語	書写	社会	算数	理科	音楽	図工	家庭	体育	道徳	総合	学活	外国語
週当たり標準授業時数	4	1	2.9	5	3	1.4	1.4	1.7	2.6	1	2	1	2
5年1組 (担当：A)	推進	推進	D	C	専科	A	D	A	B	A	A	A	D
5年2組 (担当：B)	推進	推進	D	C	専科	A	D	A	B	B	B	B	B・D

教科等	国語	書写	社会	算数	理科	音楽	図工	家庭	体育	道徳	総合	学活	外国語
週当たり標準授業時数	4	1	3	5	3	1.4	1.4	1.6	2.6	1	2	1	2
6年1組 (担当：C)	推進	推進	B	C	D	A	A	A	B	C	C	C	推進
6年2組 (担当：D)	推進	推進	B	C	D	A	A	A	B	D	D	D	推進

※ 本校は、今年度から特定の担任を置かない「チーム担任制」を採用し、週ごとにローテーションで学級を担当している。そのため、上記担任欄には、令和6年5月1日の週の担当者を記載している。

4 成果と課題

(①授業の質の向上、②多面的な児童理解、③小・中学校の円滑な接続、④教師の負担軽減、⑤その他)

＜効果のあった取組＞

①授業の質の向上にかかわって

- 専科職員の専門的な指導
- ・児童の学習意欲の向上につながる授業づくり



- ・教科の中での異学年交流

国語科：6年生が
1年生に読み語り

○ブロック研修の実施

- ・低中高のブロックで授業を見合い、協議（所属ブロック以外の参観も可）
- ・一人一回以上の授業公開（授業参観期間中、職員室のホワイトボードに提示）
- ・授業後、ブロックで協議（ブロック単位の協議→全体交流→自身の授業改善にむけて、スプレッドシートに「自分の授業にいかすこと」を記入→更新）

	1期	2期	3期	4期	5期	6期	7期	8期	9期	10期	11期	12期
1期	1期前	1期前	1期前	1期前	1期前	1期前	1期前	1期前	1期前	1期前	1期前	1期前
2期	2期前	2期前	2期前	2期前	2期前	2期前	2期前	2期前	2期前	2期前	2期前	2期前
3期	3期前	3期前	3期前	3期前	3期前	3期前	3期前	3期前	3期前	3期前	3期前	3期前
4期	4期前	4期前	4期前	4期前	4期前	4期前	4期前	4期前	4期前	4期前	4期前	4期前
5期	5期前	5期前	5期前	5期前	5期前	5期前	5期前	5期前	5期前	5期前	5期前	5期前
6期	6期前	6期前	6期前	6期前	6期前	6期前	6期前	6期前	6期前	6期前	6期前	6期前
7期	7期前	7期前	7期前	7期前	7期前	7期前	7期前	7期前	7期前	7期前	7期前	7期前
8期	8期前	8期前	8期前	8期前	8期前	8期前	8期前	8期前	8期前	8期前	8期前	8期前
9期	9期前	9期前	9期前	9期前	9期前	9期前	9期前	9期前	9期前	9期前	9期前	9期前
10期	10期前	10期前	10期前	10期前	10期前	10期前	10期前	10期前	10期前	10期前	10期前	10期前
11期	11期前	11期前	11期前	11期前	11期前	11期前	11期前	11期前	11期前	11期前	11期前	11期前
12期	12期前	12期前	12期前	12期前	12期前	12期前	12期前	12期前	12期前	12期前	12期前	12期前

授業研究を通して、自分のファシリテーションの課題や取組の重点の定期的な見直し

更新→実行

○ミニ自主研修会の開催

- ・教科指導をはじめ、各々の教員が得意とする分野にかかわって職員研修を実施する取組
(夏季期間中など→国語科、体育科、図画工作科、算数科、ＩＣＴの効果的活用)
(自主参加の指導案検討や授業づくりのための協議)

○教科担当者会の開催

- ・担当教科ごとに、教科の系統性、評価についてなどの共通認識を図る

②多面的な児童理解

○「チーム担任制」を基盤とした教科担任制の取組

- ・毎週木曜日のブロックミーティング
(日常的な連携のほかに、ブロックミーティングを設定し、児童についての交流を行った。)
- ・「チーム担任制」をいかした児童との全員面談
(学期ごとに実施する児童生活アンケートを受けて、複数の職員で面談を行うことで、日常的に児童と話せる関係を築き、「安心・安全な居場所づくり」をめざす。)

③小・中学校の円滑な接続

○中学校と合同の授業研究や校内研修



＜成果＞

- ① 系統性を踏まえて教材研究ができたことにより、つけたい力が明確になるとともに、児童の意欲を高める単元構成や授業構成ができた。学習に対して前向きな児童が増えた。

「僕らは読み語り宅急便！」の単元での児童の振り返りより

○今日は一年生に読み語りをしました。一年生のために、読む視点を意識して何回も練習をしました。家でも練習しました。今日、一年生が喜んでくれて、笑顔になってくれたので良かったです。とてもほかほかした気持ちになりました。また読んであげたいです。練習したかいがありました。

- ① ブロック研修やミニ自主研修により、担当教科以外の授業について学ぶことができた。
- ① 教科担当者会をすることで、指導や評価についての意識統一とともに、授業づくりの交流の場となった。
- ② 多面的に児童を観ることができた。児童にかかわる連携が日常化した。
- ③ 小中の9年間を見越した研究協議ができ、互いに児童生徒の様子を知ることができた。
- ④ 専科がいるため、空き時間ができ、授業の準備に充てることができた。限られた教科を担当し、複数学級で同じ教科指導を行うことができるため、教材研究や教材づくりなど授業の準備が軽減され、児童に向き合う時間が増えた。

＜課題＞

⑤ その他

- 時間割変更の難しさや、教員の出張や休暇による授業変更の難しさ、それに伴う授業時数の偏り
- 欠席児童が単元テストを実施できなかったことへの対応や、欠席等で授業に参加できていない児童への補習時間の確保



＜対策＞

⑤ その他

- ブロックミーティング等を利用して、授業時数の偏りがないかを日常的に確認する。
- 柔軟な時間割編成と、合同授業や複数指導体制を確立し、柔軟に対応できるようにする。